葛飾区消防団運営委員会への諮問について

葛飾区消防団運営委員会

１　諮問事項

変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか

２　諮問期間

令和５年８月から令和７年３月まで（審議回数：令和5年度１回・令和６年度２回　計3回）

３　諮問の趣旨

特別区消防団は、地域になくてはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として、住民の負託に応えてきたところです。

さらに、令和５年は、関東大震災から１００年の節目の年であるなど、消防団への期待はさらに高まっており、東京の安全安心を守っていくためには地域防災力の中核を担う消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要があります。

一方で、特別区においては、人口が２０３５年ごろに減少に転じ、２０５０年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、ＤＸの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化しているところです。

このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策について諮問するものです。

４　課題の提出

課題１　地域防災の要である消防団として、変化及び成長していくことが重要である。
課題２　活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要である。

5　課題と検討の方向性

課　　題	検討事項	検討の方向性
【課題１】 地域防災の要である消防団として、変化及び成長していくことが重要である。	1　入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について	（１）　団活動によりやりがいを持てる方策の検討
		（２）　資格取得講座等の拡充の検討
		（３）　多様な主体との協働による地域密着型の各種講習や教養講座の検討
	2　最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について	（１）　災害への出場命令や、団員間の情報伝達のあり方の検討
		（２）　消防団事務の効率化が可能なタブレットを活用したシステムの検討
		（３）　各種資器材の更新に合わせた仕様変更等検討
【課題２】 活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要である。	1　消防力維持のための計画的な人材育成方策について	（１）　経験が浅い消防団員への教育訓練体制の拡充、目標や訓練内容の検討
		（２）　経験豊富な団員（中核となる団員）による訓練指導体制の検討
		（３）　実働訓練のあり方の検討
		（４）　訓練効果の確認方策について
	2　地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について	（１）　積極的な災害活動の定着化及び葛飾区と連携した普及方法の検討
		（２）　地域から、より理解と信頼を得る消防団づくりの検討

本田消防団・金町消防団・特別区消防団の消防力

令和６年１月１日現在

		本田消防団	金町消防団	特別区消防団
定　　数		７００名	５００名	１６，０００名
現団員数		４８６名	３７９名	１３，８２６名
充足率		６９．４％	７５．８％	８６．４％
内訳	男　性	３８０名	３０９名	１０，７０３名
		７８．２％	８１．５％	７７．４％
	女　性	１０６名	７０名	３，１２３名
		２１．８％	１８．５％	２２．６％
平均年齢	男　性	５１．１歳	５３．３歳	５１．５歳
	女　性	５２．９歳	５６．９歳	４７．６歳
	平　均	５１．５歳	５４．０歳	５０．６歳
大規模災害団員		１０名	１名	１９５名
機能別団員		０名	１名	（令和５年１０月）５７３名

消防団員　資格取得講習・研修関係

令和６年１月１日現在

資格取得講習	講　習	研　修
項　　目	項　　目	項　　目
二級小型船舶操縦士養成講習	手話技能講習	上級幹部研修
三級陸上特殊無線技士養成講習	英会話技能講習	指揮幹部科研修
可搬消防ポンプ等整備資格者特例講習	惨事ストレス対策団員補充養成講座	初級幹部科研修
防災士	健康づくりセミナー	警防科研修
応急手当指導員講習	消防団員教養講座	機関科研修
応急手当普及員講習	ハラスメント防止講習	安全管理セミナー
上級救命講習		女性消防団員研修
普通救命講習		女性消防団セミナー
		学生消防団員セミナー